Memo | 株式メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社　大阪証券代行部 TEL：0120-094-777（通話料無料）
公告の方法	当社は以下のURLで電子公告を行います。 https://www.shizuki.co.jp/ ※事故その他のやむを得ない事由により、電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所　スタンダード市場
単元株式数	100株

ご注意

1. 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

『指月（シヅキ）』社名の由来

『指月』の社名は、創業者山本重雄が長州（現在の山口県）の出身であること、また幕末長州藩の一代家老として藩政改革で功を成した村田清風が先祖にあたることから、毛利家歴代の居城である萩城（指月城）から名をお借りしたのが命名の由来です。

株式会社 指月電機製作所

本社 〒662-0867 兵庫県西宮市大社町10番45号
TEL：0798-74-5821　FAX：0798-73-0807
https://www.shizuki.co.jp

VEGETABLE OIL INK

株主通信

第98期 中間報告書

2025年4月1日～2025年9月30日

メッセージ

内を強化し、外の変化に即応する。

シヅキ

証券コード 6994／スタンダード市場

株式会社 指月電機製作所

内を強化し、外の変化 に即応する。

**社会的なDXの促進や、設備投資・電力需要の増大。
市場の変化に速やかに呼応できる連携体制で、
営業利益、前年同期比98.9%増を達成。**

代表執行役社長
足達 信章

継続的な物価の上昇や、米国の貿易政策の動向による景気の下振れリスクなど、世界経済は依然として、先行き不透明な状況が続いています。このような厳しい経済情勢のもと、私たち指月電機グループは、産業機器用コンデンサ、xEV用コンデンサ、電力機器システムを中心とした重点事業の売上拡大に努めるとともに、継続して取り組んできた「生産性の改善」や「価格の適正化」、そして、市場の動向を踏まえた「資源の再配分」などの施策を進めてまいりました。

特に、電力機器システムにおいては、AI、ビッグデータ、IoT、クラウドサービスなどの利用拡大を背景とする社会的なDXの動きが市場規模を押し上げる大きなドライバーとなり、国内におけるデータセンターなどの設備投資の増加に加え、電力需要の高まりに向けた進相コンデンサや直列リアクトルなどの力率改善用機器の売上が大きく伸長いたしました。データセンターの設立・運用には多くの半導体が必要となり、半導体メーカーの製造現場でも、シヅキの製品が必要とされています。（本誌P5のTopicsページでも、データセンターの設備投資増加についてご紹介いたします。）

また一方で、世界的な生産調整により需要が予測を大幅に下振れしていたxEVについては、従来のxEV事業部と産業機器事業部を一つに統合した「コンデンサ事業部」が一丸となり、xEVのために増強してきた生産設備の有効活用や、深掘りしてきた技術テーマの他分野への展開に取り組むことで、新たな活路を切り拓こうとしています。

——

こうしたさまざまな取り組みの結果、当社グループの第2四半期連結売上高は13,249百万円（前年同期比3.2%増加）となり、4期連続で最高売上高を更新するかたちとなりました。営業利益につきましては、前年同期比98.9%増加の1,118百万円となり、「事業部内の連携」、そして、「事業部間の連携」が、市場の変化に迅速に呼応する組織体制に結びついてきているという手応えを感じます。

現・中期経営計画の総仕上げとなる第Ⅲ期がスタートした今、こうした連携をさらに強化し、どのような変化に対しても歩みを緩めることなく、挑戦を続けていく所存です。

事業部の一人ひとりが、自ら考え動くことで、変化に即応する。

「融合からシナジーへ」というテーマを掲げて動き出した中期経営計画 第Ⅲ期。先述したように、データセンターなどの設備投資の増加、電力需要や半導体需要の高まりを受けて市場の拡大が追い風となった一方で、その変化に対して迅速に呼応した、事業部一人ひとりの主体的な判断と行動が、営業利益を押し上げた大きな原動力となりました。

この株主通信でも度々お伝えしてきたように、2021年頃から原材料費やエネルギーコストの上昇が続く中、お客さまの理解と協力を得ながら継続的に「価格の適正化」に取り組んでまいりました。しかし、市場の拡大が続いたこの上半期においては、お客さまの生産活動を支援させていただくことが最優先という観点から、「お客さまに価格適正化のために時間を割いていただくのではなく、調達と生産に集中いただくことが、市場全体の成長にとっても、お客さまにとっても、指月電機グループの事業活動を加速させるためにも重要なことなのだ」と、自分たちで考え、それを行動に移したのです。

価格表の改訂は行わず、提案活動を行うことで、商機を逃さず、事業部が一丸となって受注に向けて力を発揮できるような機運が高まったものと考えます。

2019－2028年度

長期経営ビジョン

10年後の指月グループのあるべき姿

挑戦する社風へと変革し、
品質第一のモノづくりと、
未来を見据えた新技術・新商品の開発、
グローバルな事業展開の推進により、
社員の夢を実現し
社会に貢献する企業グループになる

融合からシナジーへ。変革の総仕上げへの、確かな一歩目。

情報共有の頻度を倍増。お客さまと市況の変化を掴み、QCDSをコントロールする。

さらに、事業部長の呼びかけのもとで、これまで月に一度設けていた情報共有の場を、月2回に増やしました。コミュニケーションの頻度を倍増したことで、一人ひとりがきめ細やかにお客さまの現況と市況の変動を掴み取れるようになり、自分たちが扱う商材と商流についての理解を深め、開発・製造・販売という職域を超えた活発な議論が生まれています。

これにより、外部環境の変化に対して後手に回るのではなく、受注が急増した際の生産計画の柔軟な変更、お客さまへのご支援方法の工夫など、QCDS（品質・コスト・納期・サービス）を綿密にコントロールしながら、変化に適応したタイムリーな動きを選択し、お客さまの次のニーズを見据えた提案活動を行えるようになりました。特に電力機器システムにおいては、それが顕著に奏功したと感じています。

市場規模の拡大と、それに即応できるだけの内部体制の強化。両面が掛け合わさり、第Ⅲ期のスタートを加速させることができました。

失敗は個人のものではなく、全体のシステムに、改善点がある。

事業部の連携が強まり、「全員でお客さまと向き合う」という機運が高まったことで、若手従業員たちの新規獲得意欲も高まりを見せています。

ともすれば、開発や技術のメンバーはバックヤード側に回り、それぞれが専門とする職域に閉じこもりがちなものですが、グループの一人ひとりがお客さまとの玄関口に立とうとする姿勢を持ち、お客さまを主軸にした会話が飛び交うようになってきました。事業部のリーダーも、「もし失注したとしても、それはQCDSのどこかに問題があるのであって、君たちが悪いわけではありません。だから失敗を恐れずに、お客さまのもとに行ってきなさい」という言葉をかけ、若手従業員たちを送り出しています。

課題があれば、みんなで知恵を持ち寄ってその解決策や改善法を見つけ出し、成功体験の喜びもみんなで分かち合う。このような環境のもとで、従業員たちは積極的にお客さまに踏み込んだ提案活動を繰り広げるようになり、自分たちなりの向き合い方を感じ取り、掴み取っているように見られます。

サプライチェーンとの関わりにも、より一層の注力を。

お客さまとの関わりだけでなく、経済環境の変化が激しさを増す中、サプライチェーンとの関わりもより一層の細やかさが重要になってくると考えます。このままサプライチェーンが安定的な供給を続けてくれるとは限らず、原料高騰による歪みや、仕入れ先の事業撤廃、国際情勢の変動による調達リスクなども視野に入れ、サプライチェーンの状態を常に注視しておかなければなりません。私たちにその変化を止めることはできないかもしれませんが、変化の兆しを察知し、早く手を打つことはできるはずです。

xEVと産業機器の融合が生み出す、新たなシナジー。

そして、拠点や分野を横断して取り組んできた「生産性改善」についても計画を上回る効果が表れ、加工条件の最適化や自動化、日々の地道な改善の積み重ねにより着実な進展を見せています。

コンデンサ事業部では、xEV市場の変動による生産能力過多の課題を踏まえて、事業ポートフォリオの見直しを図り、秋田指月や岡山指月の技術と生産能力を活用し、お互いの良いところを生かし合いながら、大小さまざまな産業機器への展開を進めています。余剰設備を有効に活用できるようになることは、収益力のさらなる向上と、ROE（自己資本利益率）の改善にもつながるものと考えます。こうした技術と知の融合により新たな製品提案や共同開発を加速させ、相乗効果による新たな価値（＝シナジー）を創出していくことが、第Ⅲ期における重要なテーマであり、私たち指月電機グループは、さらなる挑戦を重ねていく所存です。

株主の皆さまにおかれましても、ご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

中期経営計画 第Ⅲ期については、2025年6月発行の『株主通信 第97期 報告書』をご覧ください。

当社公式ホームページ
IR情報/株主通信/第97期 報告書
https://www.shizuki.co.jp/financial/notes/

こちらからもアクセスできます

データセンターを支え、社会のDXを支える
シヅキのコンデンサと電力機器

今、膨大な量のデータを高速処理するためのサーバー群を収容した「データセンター」が世界中で急速に増設され、日本でも今後さらなる増設が見込まれます。シヅキの製品もさまざまな場面でデータセンターを支え、AIやビッグデータの活用、クラウドサービスや動画、SNSのデータ量増加、5GやIoTの普及などを支えています。

空調設備

電力機器システムセグメント

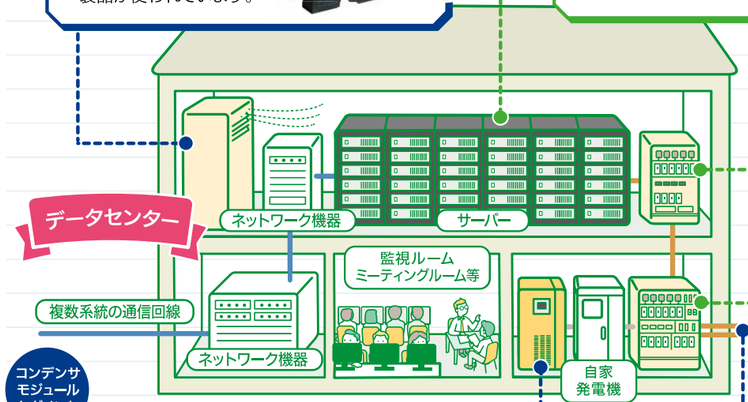
サーバーは発熱するため、冷却がとても重要。冷却に利用される空調設備（エアコン）にもシヅキの製品が使われています。

コンデンサモジュールセグメント

半導体製造 データセンター施設外

電力機器システムセグメント

サーバーには、半導体が大量に必要です。この半導体の製造現場で活躍するのが、シヅキの「瞬低補償装置」。一瞬の電圧低下でも製造装置が停止するリスクから、精密機器を守ります。



電気設備

電力機器システムセグメント

「受配電用コンデンサ」や「リアクトル」といわれる電力機器が、受電設備に設置され、力率を改善し、省エネにも貢献しています。データセンターの規模が大きくなるほど電力消費量も増えるため、シヅキの機器がより多く必要とされ、今期の好業績の要因となっています。

無停電電源装置

コンデンサモジュールセグメント

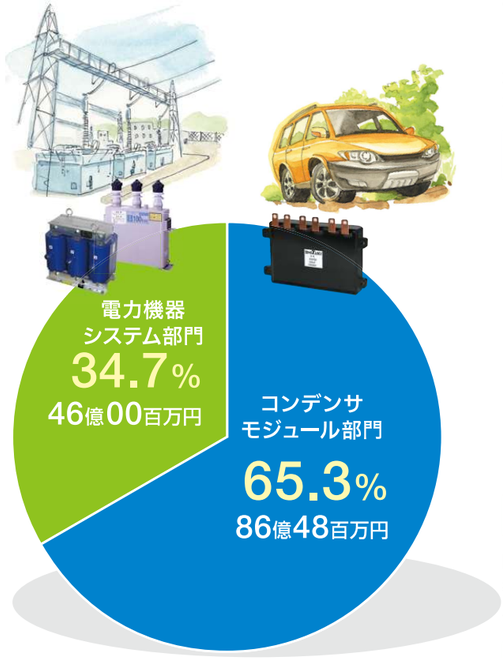
データセンターには、停電や電圧変動から装置とデータを保護するために、UPS（無停電電源装置）が導入されます。このUPSにも、フィルムコンデンサが搭載されています。

電力供給 データセンター施設外

データセンターには多くの電力が必要になります。太陽光や風力発電などの再生可能エネルギーで電気をつくる場面にも、コンデンサが使われます。

コンデンサモジュールセグメント

2025年度中間期の業績概要



連結売上高

132億49百万円

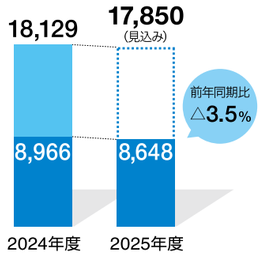
※セグメント別の営業利益については、調整額△785百万円があります。（セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用）

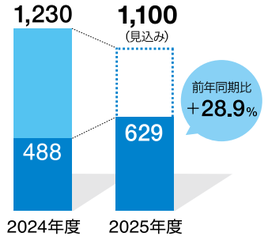
コンデンサ・モジュール部門

産業機器用コンデンサはパワエレ市場を中心に国内の売上が好調に推移したものの、海外の売上が低調に推移いたしました。また、xEV用コンデンサは当社採用品モデルのピークアウト等による影響により、前年同期比で減収となりました。結果、売上高は8,648百万円（前年同期比3.5%減少）となりました。

売上高	86億48百万円

営業利益	6億29百万円





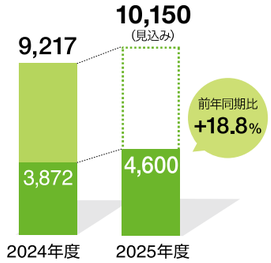
■中間期 ■通期［単位：百万円］

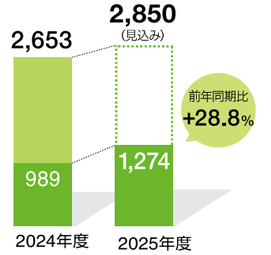
電力機器システム部門

国内における設備投資の需要増加に加え、進相コンデンサや直列リアクトル等の力率改善用機器の売上が大きく伸長いたしました。結果、売上高は4,600百万円（前年同期比18.8%増加）となりました。

売上高	46億00百万円

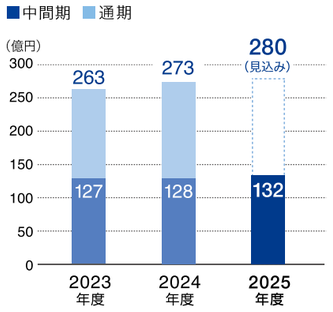
営業利益	12億74百万円



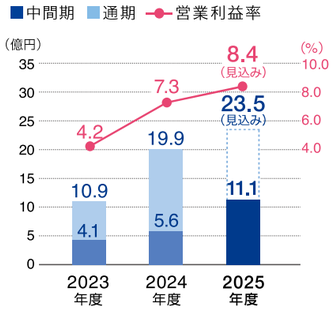


■中間期 ■通期［単位：百万円］

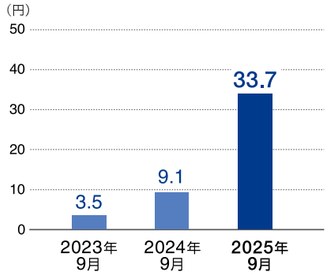
売上高



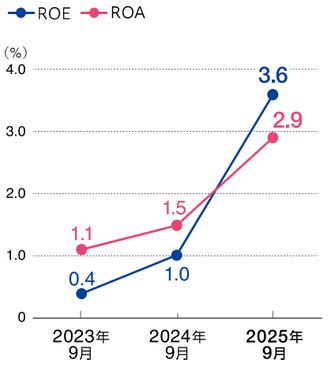
営業利益・営業利益率



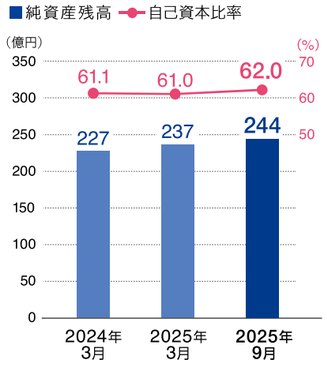
1株当たり利益(EPS)



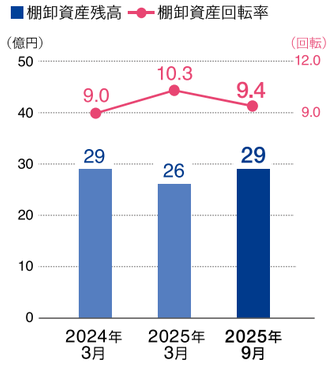
自己資本当期純利益率(ROE) 総資産営業利益率(ROA)



純資産残高・自己資本比率



棚卸資産残高・棚卸資産回転率



売上高は、海外向け産業機器用コンデンサが減少したものの電力機器システムが好調に推移し、増収となる132億49百万円となりました。利益面では、電力機器システムの売上規模の増加に加え、生産性改善の効果などにより、営業利益は11億18百万円、中間純利益は8億51百万円の増益となりました。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	第97期 中間期 2024年9月30日現在	第98期 中間期 2025年9月30日現在
資産の部		
流動資産	19,406	**20,400**
現金及び預金	6,450	**6,943**
売上債権	9,487	**10,246**
棚卸資産	3,056	**2,978**
その他資産	412	**231**
有形固定資産	13,510	**14,240**
無形固定資産	382	**295**
投資その他の資産	3,795	**3,915**
資産合計	37,094	**38,851**
負債の部		
流動負債	7,055	**5,092**
固定負債	6,895	**9,292**
負債合計	13,950	**14,385**
純資産の部		
株主資本	19,017	**20,505**
資本金	5,001	**5,001**
資本剰余金	4,276	**4,301**
利益剰余金	13,361	**14,822**
自己株式	△3,621	**△3,621**
その他の包括利益累計額	3,600	**3,581**
非支配株主持分	525	**380**
純資産合計	23,143	**24,466**
負債純資産合計	37,094	**38,851**

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	第97期 中間期 2024年4月 1日から 2024年9月30日まで	第98期 中間期 2025年4月 1日から 2025年9月30日まで
売上高	12,838	**13,249**
売上原価	9,798	**9,472**
売上総利益	3,040	**3,777**
販売費及び一般管理費	2,477	**2,658**
営業利益	562	**1,118**
営業外収益	237	**370**
営業外費用	355	**267**
経常利益	444	**1,222**
税金等調整前中間純利益	444	**1,222**
法人税、住民税及び事業税	175	**367**
法人税等調整額	12	**△4**
中間純利益	256	**859**
非支配株主に帰属する中間純利益	25	**8**
親会社株主に帰属する中間純利益	230	**851**

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	第97期 中間期 2024年4月 1日から 2024年9月30日まで	第98期 中間期 2025年4月 1日から 2025年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,834	**2,189**
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,171	**△931**
財務活動によるキャッシュ・フロー	146	**△289**
現金及び現金同等物に係る換算差額	110	**45**
現金及び現金同等物の増減額	1,918	**1,013**
現金及び現金同等物の期首残高	4,531	**5,929**
現金及び現金同等物の中間期末残高	6,450	**6,943**

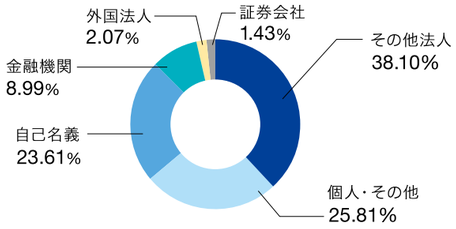
(注)十万円の位を切り捨てして表示しております。

2025年 9月30日現在

株式の状況

発行可能株式総数	128,503,000株
発行済株式総数	33,061,003株
株 主 数	5,281名

所有者別株式数分布状況

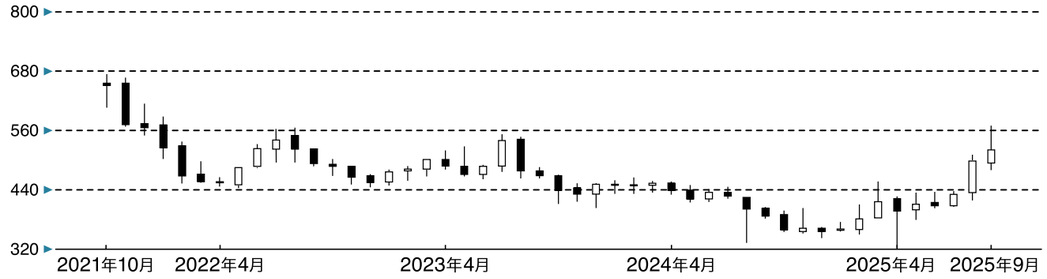


大株主（上位10名）

株 主 名	持株数（千株）	持株比率（%）
三菱電機株式会社	6,980	27.6
株式会社村田製作所	4,471	17.7
株式会社りそな銀行	1,000	4.0
指月協友持株会	977	3.9
株式会社みなと銀行	925	3.7
指月電機製作所自社株投資会	392	1.6
清原 達郎	388	1.5
東京海上日動火災保険株式会社	383	1.5
株式会社三菱UFJ銀行	301	1.2
株式会社ノザワ	224	0.9

（注）持株比率は、自己株式（7,805,961株）を控除して計算しております。

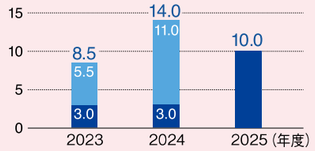
株価の推移（円）



中間配当金 1株当たり 10円

- 中間配当金 1株当たり10円
- 支払対象者 2025年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者
- 支払開始日 2025年12月12日

1株当たりの配当実績（単位:円）



2025年 9月30日現在

会社概要

商 号	株式会社指月電機製作所
英文名称	SHIZUKI ELECTRIC COMPANY INC.
本社所在地	〒662-0867 兵庫県西宮市大社町10番45号 TEL:0798-74-5821
ホームページ	https://www.shizuki.co.jp/
創業年月日	1939年 3月10日
設立年月日	1947年 9月 1日
資本金	5,001,745,595円
グループ人員数	1,361名
主要取扱業務	■コンデンサ及び関連機器･装置の製造販売 ■電力機器･装置の製造販売
営業拠点	●東京支社 ●東京支店／関西支店／中部支店 ●仙台営業所／日立営業所 広島営業所／福岡営業所

役 員

取 締 役

取締役会会長	足 達 信 章 *
取締役	稲 垣 裕 一 *
取締役	三 野 克 也 *
取締役	小 山 義 雄
取締役	松 尾 誠 人 ※
取締役	松 尾 聡 ※
取締役	御 厨 忠 章 ※

＊は執行役を兼任　※は社外取締役

執 行 役

代表執行役社長	足 達 信 章
専務執行役	稲 垣 裕 一
執行役	牧 添 浩 明
執行役	三 野 克 也
執行役	野 上 栄 一
執行役	豊 田 晃 久
執行役	西 村 大

生産子会社

社 名	資 本 金	出資比率(%)
九州指月株式会社（福岡県）	300,000千円	100.0
秋田指月株式会社（秋田県）	300,000千円	100.0
岡山指月株式会社（岡山県）	300,000千円	100.0

関連会社

社 名	資 本 金	出資比率(%)
株式会社 村田指月FCソリューションズ	100,000千円	35.0

生産・販売子会社

社 名	資 本 金	出資比率(%)
アメリカンシヅキ株式会社（米国 ネブラスカ州）	17,600千米ドル	100.0
タイ指月電機株式会社（タイ バンコク）	33,000千バーツ	80.0
指月獅子起（上海）貿易有限公司	250千米ドル	100.0